

# 迷惑行為抑制に関する研究 －心理的余裕・共感性が及ぼす影響について－

The Role of Mental Leeway and Empathy in Reducing Thoughtless Behaviors

小 池 は る か

Haruka Koike

## ( 要 約 )

本研究では、迷惑行為の抑制要因として心理的余裕・共感性を取り上げた。質問紙調査を行なった結果、研究1では、遊楽性・計画性に基づく心理的余裕高群は低群に比べ、時間的環境的余裕低群は高群に比べ、友人に対して迷惑行為を実行することが示された。場面想定法を用いて検討した研究2では、心理的余裕の効果はみられず、友人に対する電話場面のみで、場面における認知的共感性及び情動的共感性が迷惑行為抑制と関連していた。

## (キーワード)

心理的余裕、共感性、迷惑行為

## I 問題と目的

社会的迷惑行為とは、「行為者が自己の欲求充足を第一に考えることによって、結果として他者に不快な感情を生起させること、またはその行為」と定義されている（吉田・安藤・元吉・藤田・廣岡・斎藤・森・石田・北折, 1999）。その中でも、今後も続いている可能性のある人間関係の中での迷惑行為の実行は、行為者と被行為者間の関係悪化・崩壊につながりうる。相手と良好な関係を続けていくためには、受け手に迷惑と認知されうる行為を慎む必要がある。

本研究ではこのような迷惑行為の抑制要因として心理的余裕を取り上げることとする。坂上（2003）は、心理的余裕がないと自己の視点に焦点化した対応をしてしまうことを報告している。迷惑行為実行に関しても同様の現象がみられると推測できる。すなわち、心理的に余裕がない場合には、目の前の相手に配慮できず、結果として不適切な行動（迷惑行為）を実行してしまうという流れを予測する。

## II 研究1

### 1. 方法

調査対象者 短期大学生 162 名（男性 6 名、女性 156 名）。平均年齢は、19.84 歳。

質問紙 (1)心理的余裕尺度 古川・山下・八木（1993）のゆとり感尺度を学生向けに改変した高島・五十嵐・平尾・清水・中村（2004）を使用する。計 50 項目。回答形式は、「全くちがう」～「全くそうだ」の 7 件法。

(2)対人的迷惑行為尺度 小池・吉田（2005）を使用する。「同性の親しい友人に対して行為をするか」及び「同性の顔見知りに対して行為をするか」について、回答を求めた。計 48 項目。回答形式は、「全くしない」～「しそっちゅうする」の 5 件法。

手続き 順序効果を考慮し、友人に対する対人的迷惑行為項目を先に答える質問紙、顔見知りに対する

対人的迷惑行為項目を先に答える質問紙、心理的余裕尺度を先に答える質問紙を作成した。これらの質問紙はランダムに配布された。

## 2. 結果

**尺度構成** 心理的余裕尺度について、因子分析（主因子解、Promax回転）を行なった。その結果、固有値の減衰状況と解釈可能性から3因子であると判断した（Table1）。第1因子は、「何事も楽しんでやっている」「周囲にとらわれることなく自由に生きている」といったような生活全般を楽しく過ごそうという姿勢に加え、「メリハリがある」「人生設計はしっかりと立てている」といったような計画的に物事を進めていこうとする姿勢に高い負荷量が付与されていることから、「遊楽性・計画性に基づく心理的余裕」と名づけた。第2因子は、「休暇は十分にある」「自分の自由になる時間がある」といったような時間的余裕と、「学校の施設・設備は充実している」「学校のスペースはゆったりとしている」といったような環境的余裕を反映していることから、「時間的・環境的余裕」と名づけた。第3因子は「責任が重くていやになる」「常に勉強に追い立てられている」といったようなことを能力の高さによって回避し作り出される余裕の程度を示していると思われることから、「有能性に基づく心理的余裕」と名づけた。複数因子に対して負荷の高い項目を削除した上で、各因子に対して.40以上の因子負荷量をもつ項目を各下位尺度項目として採用した。因子ごとに項目の得点を合計して、下位尺度得点とした。

対人的迷惑行為尺度は、小池・吉田（2005）に従い、項目の得点を合計して尺度得点とした（Table2）。

**心理的余裕が迷惑行為抑制に与える影響について** 各心理的余裕得点の平均値によって高群・低群に分類し、高群・低群で顔見知りに対する迷惑行為実行得点、友人に対する迷惑行為実行得点に相違がみられるか検討した。

その結果、遊楽性・計画性に基づく心理的余裕得点高群は、低群に比べ友人に対して迷惑行為を実行することが明らかになった( $F(1,161)=4.55, p<.05$  ; Figure1)。また、時間的・環境的余裕得点低群は、高群に比べ友人に対して迷惑行為を実行することが示された( $F(1,161)=5.09, p<.05$  ; Table2)。顔見知りに対する迷惑行為に関しては、心理的余裕の高低で差がみられなかった。

## 3. 考察

遊楽性・計画性に基づく心理的余裕に関しては、高群の方が迷惑行為を実行するという予測とは異なる結果が示された。友人に対する迷惑行為は「迷惑」と受け取られない場合が多いことが先行研究で示されている（e.g., 小池・吉田, 2007）。遊楽性・計画性に基づく心理的余裕得点高群は、項目にあるように「先の見通しあいたい」と一方、「周囲にとらわれることなく自由に生きている」面もあり、迷惑と受け取られない見越した上で迷惑行為を実行している可能性が考えられる。

一方、時間的・環境的余裕に関しては逆の結果が示されており、これは余裕のなさにより迷惑行為を実行せざるを得ないという事情が考えられる。

なお、顔見知りに対しては心理的余裕の影響がみられなかつたが、それほど信頼関係ができていない顔見知りに対しては、迷惑行為を実行すると簡単に関係が悪化・崩壊する可能性が高く、余裕がなかつたとしても迷惑行為を実行しないよう気遣っていると考えられる。

Table1 心理的余裕尺度の因子分析

|                         | 平均値  | 1      | 2      | 3      |
|-------------------------|------|--------|--------|--------|
| 32 私の生活は充実している          | 4.56 | 0.748  | 0.059  | 0.112  |
| 39 何事も楽しんでやっている         | 4.74 | 0.735  | -0.077 | 0.146  |
| 45 メリハリがある              | 3.89 | 0.729  | -0.102 | -0.084 |
| 31 周囲にとらわれることなく自由に生きている | 3.92 | 0.686  | -0.079 | 0.121  |
| 29 人生設計はしっかりと立てている      | 3.60 | 0.660  | -0.106 | -0.130 |
| 41 先の見通しはだいたいつく         | 3.57 | 0.641  | -0.054 | -0.202 |
| 46 たいてい自分のペースで事を運んでいる   | 4.54 | 0.588  | 0.090  | -0.055 |
| 44 私の生活は安定している          | 4.33 | 0.583  | 0.164  | 0.185  |
| 40 私は自分に自信がある           | 3.21 | 0.552  | 0.108  | 0.055  |
| 42 私は今の生活に満足している        | 4.16 | 0.549  | 0.255  | 0.095  |
| 33 私には大きな目標がある          | 4.65 | 0.508  | 0.050  | -0.080 |
| 27 感情を素直に表すことができる       | 4.39 | 0.507  | 0.184  | -0.127 |
| 15 交友関係は豊かだ             | 4.85 | 0.490  | 0.033  | 0.141  |
| 48 課題をうまくやり遂げてから次の課題をする | 4.39 | 0.488  | -0.049 | -0.198 |
| 14 勉強抜きでよく遊ぶ            | 5.39 | 0.434  | -0.051 | 0.073  |
| 16 人生について考える余裕がない(逆転項目) | 3.13 | 0.428  | -0.187 | 0.143  |
| 47 感謝したくなることが多い         | 5.28 | 0.426  | -0.009 | -0.160 |
| 7 休暇は十分にある              | 3.75 | -0.155 | 0.714  | 0.027  |
| 26 学校の施設・設備は充実している      | 4.06 | -0.093 | 0.664  | -0.144 |
| 23 学校のスペースはゆったりとしている    | 3.68 | -0.074 | 0.645  | 0.016  |
| 22 精神的な余裕がある            | 3.56 | 0.041  | 0.614  | 0.116  |
| 3 自分の自由になる時間がある         | 5.05 | -0.149 | 0.560  | 0.098  |
| 18 休暇が好きなときに取れる         | 3.34 | 0.173  | 0.468  | -0.041 |
| 25 美しい環境に恵まれている         | 4.50 | 0.196  | 0.466  | 0.006  |
| 6 勉強は極めてうまくいっている        | 3.36 | 0.160  | 0.456  | -0.193 |
| 36 責任が重くていやになる(逆転項目)    | 4.38 | -0.033 | -0.064 | 0.748  |
| 37 常に勉強に追い立てられている(逆転項目) | 4.09 | -0.221 | 0.112  | 0.732  |
| 43 何かと気に入らないことが多い(逆転項目) | 4.31 | 0.098  | -0.074 | 0.640  |
| 因子間相関                   |      |        |        |        |
| 1                       |      |        |        |        |
| 2                       |      |        |        |        |
| 3                       |      |        |        |        |

Table2 対人的迷惑行為尺度の関係性別平均値

|                             | 顔見知り | 友人     |
|-----------------------------|------|--------|
| 相手に自分の価値観を押しつけてしまう          | 1.90 | < 2.62 |
| メールの返事を出さない                 | 2.32 | < 2.58 |
| 相手の持ち物を粗末に扱う                | 1.53 | < 1.68 |
| 自分の不始末を相手のせいにしてしまう          | 1.78 | = 1.87 |
| 無理にお酒をすすめる                  | 1.41 | < 1.73 |
| 自慢話ととられるような話をする             | 1.92 | < 2.74 |
| 催促されるまで借りた物を返さない            | 1.52 | < 1.97 |
| 相手の都合を聞かないまま長電話をする          | 1.37 | < 1.82 |
| あらかじめしていた約束を直前にキャンセルする      | 1.80 | < 2.03 |
| 思い通りの答えが返ってこないと、機嫌が悪い態度を見せる | 1.89 | < 2.27 |
| 相手の意見を否定する                  | 1.92 | < 2.30 |
| 相手のプライバシーに踏み込んでしまう          | 1.64 | < 2.42 |
| 相手の意見に反論するが、自分の意見を言わない      | 1.98 | = 1.91 |
| 時間を気にせず携帯にメールを入れる           | 1.99 | < 2.78 |
| 相手も忙しいが自分にも急用がある状況で、頼みごとをする | 1.81 | < 2.21 |
| 時間を気にせず電話をする                | 1.42 | < 2.11 |
| 自分の気分がのらない時には、話をまじめに聞かない    | 2.07 | < 2.37 |
| 「お金を貸して」と頼む                 | 1.25 | < 1.78 |
| 機嫌が悪い時、相手にやつ当たりをしてしまう       | 1.81 | < 2.45 |
| 気分がのらない時には、相手の電話をとらない       | 2.06 | = 2.04 |
| 愚痴をこぼす                      | 1.96 | < 3.63 |
| 酒を飲んで相手にからむ                 | 1.40 | < 2.13 |
| 本人がいないところで、相手の悪口を言う         | 2.14 | = 2.27 |
| つい余計なことを言って、相手を傷つけてしまう      | 2.20 | < 2.76 |

### III 研究2

#### 1. 方法

**調査対象者** 短期大学生 130 名（男性 2 名、女性 128 名）平均年齢は、18.78 歳。

**質問紙** (1)心理的余裕尺度 高島・五十嵐・平尾・清水・中村（2004）の尺度のうち、研究 1 における因子分析において抽出された「遊楽性・計画性に基づく心理的余裕」因子、「時間的・環境的余裕」因子を使用した。計 25 項目。回答形式は、研究 1 と同じとした。

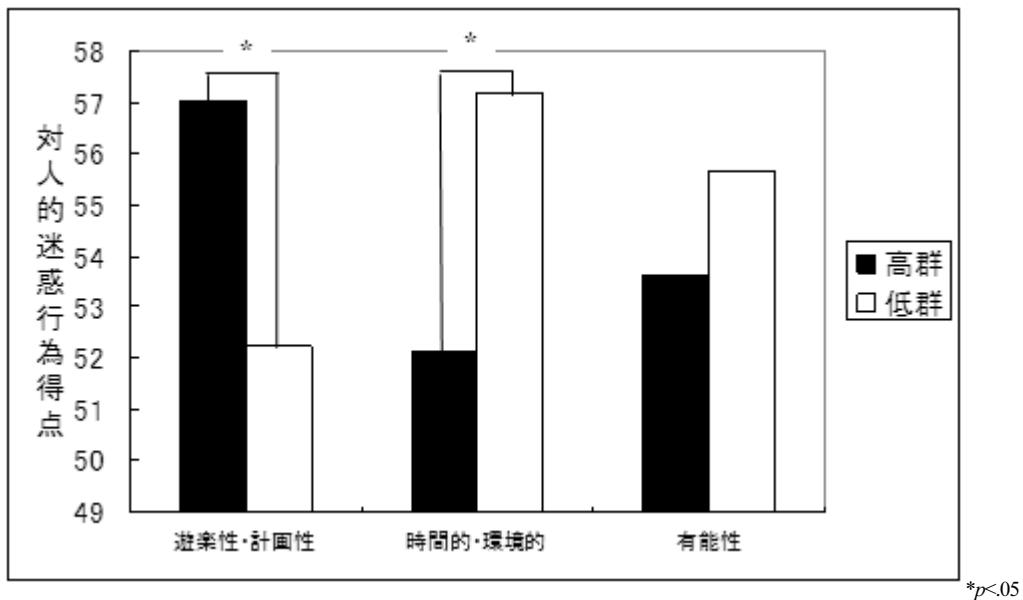


Figure1 心理的余裕下位尺度の群別の対人的迷惑行為得点（友人）

(2) 迷惑行為実行・抑制の評定 小池・吉田（2005）で用いた場面を一部改変したものを使用した。設定した行為は「何時だろうが気にせず電話をする」、「愚痴をこぼす」の2つであった。さらに各場面について、登場人物である行為者が同じ学年の顔見知りであるものと仲の良い友人であるものを設定し、「迷惑行為をするか」について回答を求めた。回答形式は、「当てはまらない（1点）」～「当てはまる（5点）」までの5件法。

(3) 共感性項目 各場面において「相手（顔見知りもしくは仲の良い友人）の立場に立ったか」（以下、場面における認知的共感性）と「配慮の気持ちを持ったか」（以下、場面における情動的共感性）を尋ね、それを共感性とした。回答形式は(2)と同じとした。

**手続き** 提示順の影響をなくすため、質問紙によって提示順を変え、カウンターバランスを行なった。

## 2. 結果と考察

**迷惑行為抑制に影響を与える要因の検討** 迷惑行為抑制に影響を与える要因を検討するため、2(遊楽性・計画性：高・低)×2(時間的・環境的余裕：高・低)×2(行為：愚痴・電話)×2(関係性：顔見知り・友人)の分散分析を行なった。その結果、行為×関係性の交互作用( $F(1,126)=35.38, p<.001$ )が見出された。電話場面では相手の関係性に関わらず迷惑行為を抑制するが、愚痴場面では顔見知りよりも友人に対して行なっていた。

**共感性に影響を与える要因の検討** 共感性項目に影響を与える要因を検討するため、上記と同様の4要因の分散分析を行なった。その結果、場面における認知的共感性及び情動的共感性において、行為の主効果(認知的共感性  $F(1,126)=88.46, p<.001$  ; 情動的共感性  $F(1,126)=95.48, p<.001$ )が見出された。愚痴場面よりも電話場面において、相手の立場に立ち、配慮しようしていることが明らかとなった。また、認知的共感性において、関係性の主効果( $F(1,126)=4.08, p<.05$ )がみられた。顔見知りに対してよりも、友人に対しての方が、相手の立場に立って考えていることが示された。

以上の結果から、量的データに関する分析では、心理的余裕が与える影響を示すことができなかった。

今後は、量的データだけでなく質的データを分析に加えることによって、心理的余裕の影響を詳細に検討する予定である。

**共感性と迷惑行為抑制との関連** 共感性と迷惑行為抑制との相関係数を算出したところ、友人に対する電話場面のみで、場面における認知的共感性及び情動的共感性が迷惑行為抑制と関連していた（認知的共感性  $r=-.22$ ；情動的共感性  $r=-.25$ ）。一般的にあまり許容されにくい行為であることに加え、今後も関係が続く相手であり、配慮の必要性が認知されたためと思われる。

#### IV 今後の展開

本研究では、心理的余裕・共感性が迷惑行為抑制に与える影響について検討したが、その効果は部分的なものであった。

測定方法別に検討すると、心理尺度では心理的余裕の関連がみられたが、場面想定法においては関連がみられなかった。また、関係性別に検討すると、顔見知りに対しては関連がみられなかったものの、友人においては部分的な関連がみられていた。以上のことから、心理的余裕と迷惑行為抑制との関連には、相手との関係性や状況要因が深く関連していることが示唆される。

本稿では示していないが、研究2では、迷惑行為実行・抑制評定の理由、及び共感性項目評定の理由について、自由記述方式で回答を求めていた。それらと心理的余裕との関連を詳細に検討することによって、心理的余裕と迷惑行為抑制の間を媒介・調整する要因を探り、これらの関連をより丁寧にみていく必要があるだろう。

#### 引用文献

- ・古川秀夫・山下京・八木隆一郎 (1993) . ゆとりの構造 社会心理学研究, 9, 171-180.
- ・小池はるか・吉田俊和 (2005). 対人的迷惑行為実行頻度と共感性との関連—受け手との関係性についての検討— 東海心理学研究, 1, 3-12.
- ・小池はるか・吉田俊和 (2007). 共感性と対人的迷惑認知、迷惑認知の根拠との関連—行為者との関係性による違いの検討— パーソナリティ研究, 15, 266-275.
- ・坂上裕子 (2003). 歩行開始期における母子の共発達：子どもの反抗・自己主張への母親の適応過程の検討 発達心理学研究, 14, 257-271.
- ・高島直子・五十嵐靖博・平尾元尚・清水京子・中村延江 (2004). 美容専門学校生の学校適応感・ゆとり感と心身の健康度 山野研究紀要, 12, 33-42.
- ・吉田俊和・安藤直樹・元吉忠寛・藤田達雄・廣岡秀一・斎藤和志・森久美子・石田靖彦・北折充隆 (1999) . 社会的迷惑に関する研究 (1) 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (心理発達科学), 46, 53-73.